

JAL退職者交流集会報告③ 以下のQ&Aは、7月29日のJAL退職者交流集会における荒木克巳氏と丸山巖氏の両OB機長による講演記録を、読みやすく整理し加筆補正したのですが、テーマごとに5回に分けて掲載します。

### ③破綻の原因について。

それでは質問に戻りますけれども、マスコミでもいろいろずっと報道されてきましたけれども、日本航空の破綻の本当の原因はどこにあるとお考えでしょうか？

(荒木さん)

マスコミなどは、やっぱりリーマンショックによる世界的不況や新型インフルエンザの影響などをいちばん大きな原因だと報道していますが、これは本当なのでしょう？

管財人が「コンプライアンス調査委員会」というのを指名して、経営破綻の要因や、経営上の問題点を調査させました。この委員会が2010年8月に出した報告書によると、経営破綻の要因として、そのような社会的、経済的な状況もあるけれど、代々続いたいわゆる放漫経営とその結果をきちんと精算しないで、ズルズル先延ばしをして損失を膨らませたこと、しかもその責任を追及しないで放置しておいたということを、ちゃんと指摘しています。

他に行政上の問題、いわゆる赤字路線を飛ばし続けたということも言っています。

しかし、この「コンプライアンス委員会」の目的は、その名称の通り過去の経営者の重大なコンプライアンス(法令遵守)違反の有無を調査することとなっているものですから、さすがの旧経営陣も刑事責任を問われるようなへまなことはやっていなかったのだから、経営責任の追及はうやむやになってしまったんです。従って管財人も全くそれを問わないということになります。

破綻の本当の原因には、もちろん行政上の問題がひとつ大きな要因としてありますけれども、もう一つは歴代の経営の無責任さが大いにあると思います。

(丸山さん)

似たようなことですが、航空行政がもう根本的に間違っています。それにまたへつらうように歴代の経営が、保身のために何でも政治家や行政の言いなりになって、「はい、はい、」とやってきました。

しかも、JALは非常に時流に乗っていた企業でしたから、お客さんはどんどん増える、それに儲かる、日銭が入るということで、それに群がる、利権に群がってくるような、儲け話に群がってくるような、そういう政・官・財の連中が寄ってたかって、「まだまだ大丈夫。もうちょっと吸い上げて大丈夫だ、まだまだ大丈夫」とやっているうちに、とうとう大丈夫

じゃなくなったという、簡単に言ってしまうとそういうことではないですかね。元凶は航空行政だし、利権に群がってきた連中がJALの懐に手を突っ込んで、ぼんくらの経営者がそれを受け入れて、とうとう潰れてしまった。

だけど、本当に潰れたかどうかまだ分からないですよ。経営は財務内容をきちんと正確には発表してないんですよ。すべて公表され尽くしていませんから。

だから、私はかなり偽装倒産くさいと見てますけどね。

(司会)

ハイ、ありがとうございました。

今の質問の裏返しですけれども、JALの再建に必要なと思われることについてお答えください。

(荒木さん)

今までの経営がやってきたことに対して、労働組合への違法行為も含めてきちんと責任の所在をはっきりさせることで、それによって働く社員の人心を一新させるということでしょう。

それと先ほどの、整備、客乗、乗員の3人の方が仰っているのを聴いていまして、職場の状況が精神的な面で、また待遇の面でも非常に荒廃している、だから士気も落ちてくるんだという状況が分かりました。

もう一つそれに並んでお互いの不信感、これは社員同士、それから特に社員と職制のあいだの不信感、こういうものが非常に大きくなっているなと感じました。

この辺を是正しないと、残念ながらこの会社の将来は明るくないと思います。

(丸山さん)

いままでやってきたことを全部裏返にやればいいんじゃないかなあ。何よりも、企業というのは人がやっているわけで、日本航空という商標が飛行機を飛ばしているわけじゃなくて、一人ひとりの社員が力を合わせて、昔から言うように「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」という言

葉の通りで、いろんな人がかわりあって、最終的に飛行機を飛ばしていくということをやっているわけですから、そこで働く人たちの環境をきちんと整備しないと、企業の活動としては成り立たないという気がします。稲盛語録じゃ飛行機は飛ばないんです。スローガンだけで飛行機が飛ぶのなら、誰でもできるハナシですが、一人ひとりの社員を大事にするということが大切なんですから、整理解雇なんてえのはもってのほかです。本当に必要かどうかという数さえ未だにはつきりしないでしょう？

稲盛のおじさんなんか、「あれは必要なかったんだ」なんて言い出したこともあって、そういうことからして、ああいう人心を荒廃させるようなこと、人間性を無視するようなやりかたというのは許せない。こんなやり方は、恐怖心を植え付ける側から見ればすばらしいものかもしれませんが、そんなものを植え付けた日には仕事はうまく回っていかない。しかも、労災の人まで首切っているんです。

細かく見るといろんな問題があります。ある特定の期間に長期病欠をした、その前後の人はOKなだけけれども、特定の期間の長期病欠者の首を切る、要するに、みなさん遠慮がちに言ってるけど、はっきり言ってしまうと、組合活動家を狙い撃ちにして首切ってるんですよ。そういう手口だということをよく見抜いておかないといけないと思います。

こういうことを許すような労働組合じゃ駄目ですね。

いろいろ言われてますけど、最終的には航空会社ですから、肝心要の機長がしっかりしなければ駄目だね。私もかつては頑張ったつもりだけれども、とにかく機長が先頭に立って、みんなの勇気を鼓舞して頑張って行かなきゃいけない。そういう意味では、このあいだの機長組合の選挙結果、なかなか結構な内容で、悪党どもはほとんど落選しちゃった。みんな遠慮して、本当のことをストレートに言わないけど、分かりやすく言ったほうがいいんじゃないですか？ 下世話に言えば、悪玉が落ちこちて、善玉がたくさん通ったんだということなんです。一挙に失地回復は不可能かも分かんないけど、機長たちが一步一步足元を固めて本当にみんなのために、本当に日本航空の再建のために先頭に立ってやってもらいたい。というのが私の願いです。

私は年金、もう清算しちゃったしね。どうでもいいのかも分かんないけど、健康保険なども次々と値上げになって、後期高齢者ではなくて末期高齢者になってきたから、何でもかんでもカネ取られるばかりになって、ひどい目に遭ってますよ。ちょっとしたことを許しておく、次から次に国にいいようにやられてしまうという生活実感がありますんで、機長

が先頭に立ってこの会社をよくしてもら、ひいては社会をよくしてもらいたいという、切実な願望があります。

(司会)

はい、ありがとうございました。

やや放送コードすれすれの発言もあったようですけども。整理解雇についても見解を述べられておりますけれども、荒木さん、何か付け加えることがありましたら、お願いします。

(荒木さん)

特にありませんね。いずれにしても年齢で線を引くというのも怪しからんし、整理解雇の必要条件を満たしていない。

そして、解雇された方々の顔ぶれを見れば明らかなんです。組合活動を熱心に進めてきた人が多数入っている。経営の意図は明らかです。

いまさら「整理解雇、怪しからん」というのは分かりきったハナシなんで、もう言いません。

